

セインズベリー日本藝術研究所との 共同研究

2015年12月22日、奈良文化財研究所は英国セインズベリー日本藝術研究所との共同研究に関する協定を締結しました。

セインズベリー日本藝術研究所 (Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures; SISJAC) は、英国東南部、ノーフォーク州の州都ノリッチ (Norwich) という町に所在します。ノリッチは人口13万人規模の地方都市ですが、歴史と伝統のある街で、ノリッチ大聖堂は英国では2番目の高さを誇る尖塔で著名です。

セインズベリー日本藝術研究所は、ロバート・セインズベリー卿夫妻の資金援助のもと、日本の芸術や文化への知識と理解を推進する目的で1999年に設立されました。ノリッチ大聖堂のすぐ近くに所在し、恵まれた環境のもとで研究を進めています。現在は、英国のトップ20大学のひとつと評価される地元ノリッチのイースト・アングリア大学 (UEA) をはじめ、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS)、大英博物館等と密接な連携関係を持ち、それを通じて共同研究を推進しています。具体的には、フェローシップ制度、講演会、国際ワークショップ等を実施するとともに、ホームページの充実、研究成果の出版に力を注いでいます。海外における日本文化研究のセンターであると同時に、日本考古学の成果を海外に発信する拠点となっています。

考古・文化遺産学センター長を務めるサイモン・ケイナー博士は日本の先史考古学を専攻され、日本、英国をはじめ世界中で考古学調査をおこなって



ノリッチ大聖堂と研究所 (研究所HPより)

います。また、東アジア・ヨーロッパ考古学の様々な局面について教鞭をとり、著書も多数ある、海外における日本考古学研究の第一人者です。

奈文研は、これまでも文化庁が1992年に米国スミソニアン研究機構およびアーサー・M・サックラー美術館と共同で開催した「古代の日本 Ancient Japan」展や、2004年のドイツでの「日本の考古-曙光の時代」展に主体的に関わり、日本考古学の成果を海外に紹介してきました。また、海外における調査研究の成果報告書を英語で刊行する等、英語圏にむけた情報発信に努めてきました。また、英国においては、2009年に大英博物館で開催した「The Power of Dogu: Ceramic Figures from Ancient Japan」展が多くを観客を集める等、日本の歴史と文化に対する関心は高いものがあります。

協定は、セインズベリー日本藝術研究所の水鳥真美統括役所長が来所され、松村所長とともにサインをし、終始和やかな雰囲気の中で取り交わされました。今回締結した協定は、日本考古学の国際的研究の推進事業を共同して実施することを目的としたものです。奈文研が主体となって刊行した書籍や公開しているデータベースをもとに、セインズベリー日本藝術研究所が英語で日本考古学の書籍刊行やデータベースを作成することは、日本考古学の国際的研究の推進に大きく貢献することと考えられます。同時に、奈文研の活動を広く海外に発信することともなり、今後の進展が期待されます。(都城発掘調査部長 玉田 芳英)



協定に調印した水鳥所長と松村所長